

平成
31年度

入学試験 国語問題

注

- 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 問題用紙は持ち出さないこと。
- 字数制限のあるものは、原則として句読点、記号も一字に数えます（指示のあるものは除く）。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

巨大な石像モアイで名高いイースター島は、チリの沖合い三千六百キロメートルの太平洋に浮かぶ絶海の孤島である。このポリネシアの小さな島の歴史について花^Aフン分析と考古学が明らかにしたことは、地球と人類の将来について真^Bケンに考える人々の間では、とくに重要な教訓として受け取られている。その「イースター島の教訓」^①は、生態系に対する無配慮が生んだ前工業化時代の自然破壊の例として、今では多くの

現在、森林の全く見られないこの島も、ポリネシア人が初めて入植した西暦四〇〇年ごろには、全島が森林に覆われていたことが明らかにされている。花^Aフン分析と洞窟^{ドウクツ}に刻まれた考古学的な記録に基づく^Cフク元によれば、この島における「ヒトと生態系の関係」史は、およそ次のようなものであったとされている。

ここにやってきたポリネシア人たちが、初めてその前人未踏^②の島を見たとき、島はヤシ類の森林で覆われていた。(1) いずれの大陸からも遠く離れた島には、哺乳類^{ほにゅうるい}が生息せず、代わりにおびただしい数の鳥類が生息していた。(2) 哺乳類が生息していなかったのは、太平洋の真ただ中のこの絶海の孤島に、泳いでたどり着くことができた哺乳類がいなかったことによる。(3) ポリネシア人たちは、イースター島にたどり着いた初めての哺乳類だったと言ってもよいのだが、実はそのとき、もう一種類別の哺乳類^{ほにゅうるい}がひそかに島に上陸していたのである。(4)

その哺乳動物というのは、丸木船^③での長い船旅の末に島にたどり着いたポリネシア人たちが、航海中の糧とするために船に乗せていた、ラットである。島に到着した船から逃げ出したラットは、天敵のいないこの島で野生化し、瞬く間に全島に広がっていったらしい。このラットの子孫が、やがてともに島にたどり着いたポリネシア人たちの子孫と島の生態系^④に大きな災禍^{さいか}を及ぼすことになるのだが、長い船旅を経て新天地にたどり着いたポリネシア人の中には、ラットの逃走^イというささいな出来事に注意を向けた者は一人もいなかったにちがいない。

④ 島から森林が失われたのは、入植者たちがさまざま目的で森林を切り開いたからである。まず、農地にするために森が切

り開かれた。一方で、入植者たちは海洋民族にふさわしく、漁業を営むこと^エで豊かな海の幸をたんばく質源として利用したのだが、漁には丸木船が欠かせない。丸木船建造のためにも太い材木を森から切り出す必要があった。

食料生産とのかかわりが深いこれらの目的に加え、宗教的・文化的な目的でも森林が伐採された。a、祖先を敬うために火山岩の巨石に彫刻を施す宗教文化が盛んになり、石切り場から巨石を運び出すために森林が犠牲となったのである。農業と漁業に従事する階層の人たちが巨石を切り出す役割を担い、また食料を調達して石工[※]たちの生活を支えた。しばらくの間、豊かな森林の恩恵を享受することにより、高度な技術を誇る巨石文明が栄えた。

イースター島が緑の森で覆われていたころ、森には丸木船を作るのに十分な大きさのヤシの木がたくさん生えていた。その木を切り倒すことで作られた丸木船を操り、漁師たちはサメやフカ[※]などの大きな魚を捕まえていたのである。b、イースター島から四百キロメートルも離れた無人島まで丸木船を漕いでいき、無尽蔵ともいえる海鳥[※]のコロニーを狩ることもできた。島の人々のたんばく質源は十分すぎるほどであったと言えるだろう。十分な食料とそれが支えた文明を象徴するのが、今に残る巨大な石像モアイである。一五〇〇年ごろには、人口も七千人に達したと推定されている。そのころまでが、島の栄光の時代であった。

しかし、その繁栄は決して長くは続かなかった。丸木船を作れるほどの太い木が切り尽くされてしまったからである。太い木を伐採したとしても、たえず新しい木が芽生え、順調に成長していたら、森には常に太い木が存在し、丸木船を作る材木も持続的にキョウ^D給されたはずである。

c イースター島では、ヤシの木の森が再生することがなかった。ヤシの木の更新を妨げたのは、ヒトとともに島にたどり着き野生化したラットであると推^Eソクされている。ラットは、ヒト以外の哺乳類のいない、すなわち競争者も天敵もない新天地で爆発的に増加した。そのラットたちがヤシの実を食べ尽くしてしまうため、新しい木が芽生えて育つことができなかつたらしいのである。

花フン分析によるフク元で見る限り、イースター島において三万年もの間自然に維持されてきたヤシ類の森林は、ヒトによ

る直接の森林破壊と、ヒトが持ち込んだ外来動物であるラットがもたらした生態系への影響によって、入植後わずか千二百年ほどで、ほぼ完璧に破壊されてしまったのである。

一七二二年、初めてヨーロッパ人がこの島を訪れたときには、島の繁栄も豊かな森林植生も、すでに過去のものとなっていた。木は切り尽くされて森はなく、その結果として引き起こされた土壌流亡^{※とじょうりゆうぼう}によって畑はやせ細っていた。農業生産がふるわないだけでなく、漁船を作る材木がないため、かつてのようにサメや海鳥を捕ることもできなくなっていた。当然のことながら、島は深刻な食料不足に陥っていた。部族間の争いが絶えず、食人風習まではびこっていたと言われる。人口も、すでに往時の三分の一にまで減少していた。

「イースター島の教訓」とは、高度な技術や文明が、恵まれた自然に支えられて発達したとするならば、いったん過剰利用や誤用で健全な生態系を損なってしまえば、同時に文化も人心も荒廃し、人々は悲惨で過酷な運命に耐えなければならなくなるという苦いものである。

巨大な石像群は、一〇〇〇年から一六〇〇年の間に建造されたとされている。祖先を崇めるために巨石の彫像を作った人々は、数世代後の子孫の悲惨な暮らしを想像することができなかったのだろうか。偉大な航海者として祖先への畏敬の念は強かったようだが、子孫の幸せには十分に心を配ることがなかったようだ。

祖先を崇める文化はさまざまな民族に共通であるが、数世代後の子孫の幸せを願う文化は、それほど一般的ではないのかもしれない。しかし、今後の人類の存続は、祖先よりも d 子孫を慮る文化^{おもんばか}、すなわち ⑦ 持続可能性という倫理を支える文化^{れんり}を早急に築くことができるかどうかにかかっているとさえ言える。

(鷲谷いづみ『生態系を蘇らせる』より)

※ ポリネシア：太平洋に散在する諸島のうち、一八〇度の経線から東にある島々の総称。

花フン分析：地層中に含まれる花フンや胞子の種類の、積層順による変化を調べて、過去の植生の変遷や気候変化などを

推定する方法。

丸木船：丸木をくりぬいて作った船。

石工：石を刻んで細工する職人。

フカ：大型のサメ類の俗称。

コロニー：同一種の生物が形成する集団。

土壌流亡：地面の傾斜や雨風などの影響によって表面の土壌が流出する現象。

問一 傍線部A～Eのカタカナを漢字で表記したとき、同じ漢字を使うものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 花フン

ア フン争が起こる
 イ 興フンして眠れない
 ウ 岩石をフン砕する
 エ 火山のフン火

B 真ケン

ア 機械を点ケンする
 イ 危ケンな場所
 ウ ケン道の大会に出る
 エ 戦争を体ケンする

C フク元

ア フク水盆に返らず
 イ 起フクが激しい
 ウ フク雑な構造
 エ 毎日フク習する

D キヨウ給

ア 資料を提キヨウする
 イ 公キヨウの交通機関
 ウ 国際キヨウ調をはかる
 エ 実キヨウ中継

E 推ソク

ア 規ソクを守る
 イ 天体を観ソクする
 ウ 円柱のソク面積
 エ しばらく休ソクする

問二 傍線部①「イースター島の教訓」とはどのような教訓ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 高度な技術や文明の過剰利用や誤用することで資源が大幅に減少するため、今以上の発展が見込めず人類が繁栄しなくなるという教訓。

イ 巨石文明に見られるように高度な技術を支えるのは生物のはたらきであり、海や島の生物を乱獲すれば子孫が悲惨な暮らしになってしまうという教訓。

ウ 豊かな森林は高度な技術や文明の発達を支えており、工業化や自然破壊を続けると人類は祖先を大切にす文化を失ってしまうという教訓。

エ 宗教的・文化的な儀礼や生命の尊さを忘れて高度な技術や文明の発達だけを求めて、自然破壊をすることで人類存続の危機になってしまうという教訓。

オ 高度な技術や文明の発達を支えた生態系に対する無配慮や自然破壊をすると、人類は悲惨で過酷な運命に耐えなければならなくなるという教訓。

問三

I

に入る語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 環境学や生態学

イ 考古学や海洋学

ウ 土木工学や建築学

エ 宗教学や民族学

問四 傍線部②「前人未踏」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 物事の手本となる人が全くいないこと。

イ 過去にだれも到達していないこと。

ウ 今までに例がなく非常に珍しいこと。

エ これまでに見たことも聞いたこともないこと。

オ 実現困難と思われる偉業を成し遂げること。

問五 次の一文を本文中の(1)～(4)のどの箇所に入れるのが適当ですか。番号で答えなさい。

それに対して、空を自由に飛べる鳥は、多くがこの島に住みついていた。

問六 二重傍線部「ひそかに」と異なる品詞のものを傍線部ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問七 傍線部③「ラット」は大型のねずみのことですが、それを別の表現で述べられた部分を本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問八 傍線部④「島から森林が失われた」とありますが、何によって森林が失われましたか。その原因がすべて記されている部分を本文中から四十五字で探し、その最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。

問九

a

d

に入る適当な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は二度以上使用しないこと。)

ア むしろ

イ しかし

ウ だから

エ すなわち

オ なぜなら

カ また

問十 傍線部⑤「巨大な石像モアイ」は何のために作ったと考えられますか。本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問十一 傍線部⑥「文化も人心も荒廃し」たとありますが、この様子が具体的に述べられている一文を本文中から探し、その最初の五字を抜き出して答えなさい。

問十二 傍線部⑦「持続可能性という倫理を支える文化」とありますが、これを築くためには何が最も大切ですか。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問十三 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア イースター島は入植後十六世紀頃まで繁栄したが、その後はすぐに無人の島となった。

イ イースター島の巨石文明が荒廃した原因は森林伐採と巨石採掘のみが挙げられる。

ウ 絶海の孤島では丸木船は全く必要とされず、巨石を切り出す技術が注目された。

エ 人類が存続していくためには、子孫の幸せを願う文化を築くことが必要である。

オ 祖先に対して畏敬の念を抱くのは、ごく一部の少数民族に限定されている。

【二】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

一休和尚は、いとけなきときより常の人には変はりたまひて、利根發明なりけるとかや。師の坊をば養叟和尚と申しけり。
こびたる檀那ありて、常に来たりて和尚に参学などしはべりては、一休の發明なるを心地よく思ひて、折々はたはぶれを言ひて、問答などしけり。

あるとき、かの檀那、皮袴を着て来たりけるを、一休、門外にてちらと見、内へ走り入りて、へぎに書きつけ、立てられけるは、

この寺の内へ、皮のたぐひ、固く禁制なり。もし皮のもの入るときは、その身に必ずばち当たるべし。
と書きておかれけり。

かの檀那これを見て、「皮のたぐひにはち当たるならば、このお寺の太鼓は何としたまふぞ。」と申しけり。
一休聞きたまひ、「さればとよ、夜昼三度づつばち当たるあひだ、その方へも太鼓のばちを当て申さむ。皮の袴着られけるほどに。」と

I

（『一休咄 卷之一』より）

※ 師の坊：師匠である僧。

こびたる：気の利いた表現を得意としている。

檀那：布施などで寺を援助する家。檀家。

参学：学問、特に仏教について学ぶこと。

へぎ…へぎ板、杉やひのきの薄い板。

問一 傍線部A～Dの歴史的仮名遣いをすべてひらがなで現代仮名遣いに改めなさい。

問二 傍線部1～3の主語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号を二度使用してもよい。)

- ア 一休 イ 養叟和尚 ウ 檀那 エ 仏様 オ 作者

問三 傍線部①～③の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 「いとけなき」 ア 暇がない イ 幼い ウ 身寄りがいい エ 貧しい
② 「利根発明」 ア 賢いこと イ 活発なこと ウ 明るいこと エ 我慢強いこと
③ 「禁制なり」 ア 禁止である イ 間違いである ウ 義務である エ 強制である

問四 傍線部④「その身に必ずばち当たるべし」について、次の設問に答えなさい。

- 1、「ばち」を漢字に改めなさい。
2、どのようなばちが当たるのかを説明した次の文の空欄に入る適当な語句を本文中から抜き出して答えなさい。
夜と昼と三回ずつ「 」で叩かれること。

問五 傍線部⑤「その方」とは誰を指しますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一休 イ 養叟和尚 ウ 檀那 エ 仏様 オ 作者

問六 傍線部⑥「皮の袴着られけるほどに」の解釈として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 皮の袴を着せられていたので
- イ 皮の袴を届けなさったので
- ウ 皮の袴を着ていらっしやったので
- エ 皮の袴を差し上げたいので

問七 空欄 I に入る語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 泣かれけり
- イ 叱られけり
- ウ わびられけり
- エ おどけられけり

問八 この作品は江戸時代に成立しました。この作品と同時代に成立した作品を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。また、その選んだ作品の作者名を漢字で答えなさい。

- ア 源氏物語
- イ 方丈記
- ウ 枕草子
- エ 徒然草
- オ 奥の細道

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

安室奈美恵さんの引退で、「アムラー」が改めて話題になった。1990年代、安室さんのファッションをまねた若者のことだ。

「アララー」という若者語もあった。アムラーになりきれしていない様子を、I 「あらら」にかけて冷やかした。^①抑揚をつけてつぶやいてみると、おかしみが増す。造語のセンスとしてはかなりのものだと思う。

最近、インターネットで「おっしゃるストーリー」という言い回しを知った。若者が、会話で同意を示す際に使うという。「おっしゃる通り」。言葉を楽しむ感覚は受け継がれている。

「若者は規範から自由になることを求め、言葉の規範からも自由になりたがる。いつの時代も同じです」。梅花女子大教授の米川明彦さんは、俗語の収集・^ア分析を40年続ける。俗語を「改まった場では使われない口頭語で、荒い、^イ下品、リズムカル、軽いなどと意識される言葉」と定義。若者語が代表格で、業界用語、隠語、流行語などがある。

「俗語は研究対象と見なされていなかった。軽んじられていましたが、日本語の一定部分を占める重要な分野です」。時に、言葉の乱れと批判される。日本語を壊す、意味がわからない、と。「しかし、場を和ませたり、^A会話を弾ませたり、笑いを生んだりの良い点がたくさんあります」。米川さんは俗語がいとおしそうだ。

いい大人になった我々の世代も、平成のはじめは「アッシー」「メッシー」と浮かれた流行語に興じていた。「とりま」（とりあえず、まあ）「よろ」（よろしく）を駆使する若者もかつての自分の姿だろう。使う場面をわかまえて、改まった表現があることを学んだ上なら、言葉の豊かさにもつながる。

米川さんは「自分の言葉がいつも正しいと思わないこと」と^ウ傲慢な態度を戒める。「^Bおっしゃるストーリー」と心で唱え、うなずく。

（読売新聞『日曜の朝に』より）

問一 空欄 I に入る適当な品詞名を漢字で答えなさい。

問二 傍線部①「抑揚」のように熟語はさまざまな構成があります。傍線部①「抑揚」および、次の②～⑤の熟語と同じ構成になっているものを後のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は二度以上使用しないこと。)

- ② 非常 ③ 濃霧 ④ 合掌 ⑤ 逃避
ア 繁盛 イ 難易 ウ 未来 エ 就職 オ 美談

問三 傍線部ア「分析」、イ「下品」、ウ「傲慢」の対義語をそれぞれ漢字で答えなさい。

問四 傍線部Aについて「会話が弾む」は慣用句ですが、次の①～⑤の慣用句の意味として適当なものを後のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は二度以上使用しないこと。)

- ① 目に入れても痛くない ② 腹を割る ③ 輪をかける ④ 愛想が尽きる ⑤ とりつく島もない
ア 程度がさらにひどくなること イ 本心話すこと ウ たよりとしてすがる手がかりもない
エ すっかりいやになること オ 非常にかわいがること

問五 傍線部B「おっしゃるストリート」の本来の表現を本文中から抜き出して答えなさい。